

F11学級通信

第7号（10.09.22）

前期中間が終わり、夏休みで一息ついて9月に学校が再開したと思ったらもう次の「試験」が始まろうとしています。試験勉強を始めている人も多いことでしょう。そうして勉強しているとき、こんな疑問を持ったことがありませんか？

「なんで勉強しなきゃならないんだろう・・・？」

この疑問に対して、その時々で色々なことを考えてきました。

「勉強」とは何か？なぜ「勉強」しなければならないか？

（2007年3月11日 学級通信）

自分の中学・高校時代に、この疑問はいつも頭によぎっていました。僕の場合には、その頃ははっきりとした理由などわからないまま勉強していました。ただ、僕自身がそれでも勉強というものと向き合えたのは、「教師になる」という夢を持っていたからです。夢のために大学に入らなければならないんだし、大学入試という関門があるからと、嫌な勉強も自分に納得させるに足る理由があったからなのです。「教師になる」という夢は僕をずっと支え続けていました。

大学に入ると、考え方がガラッと変わりました。中学・高校では数学が大好きでしたが、大学に入って挫折。じゃあ、勉強はまるでつまらなくなったかということ、そんなことは全然ありませんでした。たくさんいい講義に出会いました。今に通じる考え方の大きなところを大学で学びました。「科学リテラシー」の重要性を知りました。「自分の目で見自分の頭で考える」ことの重要性を知りました。「生物ってすげえ！」と心の底から思いました。生物教師になろうと思ったとき、日本の生物教育を真摯に考える恩師の存在がありました。

目からウロコの話が毎日毎日聞け、とても興奮しました。生まれて初めて勉強が楽しくてしょうがないと思いました。高校時代には全く感じなかったことですが、大学で好きなことを好きなだけ「学べる」というのは、本当に幸せなことでした。そこでは、高校時代までにある程度義務感だけで勉強していたものも、意味あるものとして活用できる場面が数多くあり、そこで初めて勉強というものがつながって感じられました。

そんな思いを、大学4年（21才）のとき、教育実習に行った母校で話しました。

今、自分自身がなりたい職業などある人もいるでしょうし、ない人もいるでしょう。でも、今自分自身がすぐに「なれる」自分には限りがあります。よく、今のままでなれる職業につけばそれでいい、という人がいますが、でも人生にはある時よき出会いがあって、それまで思ってもいなかったようなものに「なりたい」と思う瞬間が訪れます。そのとき、何の準

備もしていなかったら、「なりたい自分」になれないかもしれないのです。だから、勉強ってというのは、いつか自分がそんなことを思ったときのために「なれる自分」を広げる作業だと思えばいいのです。実際、僕は高校時代に物理と化学を勉強しながら、なぜこれを勉強しなきゃならないんだろうなあと感じていましたが、大学に入って生物学を勉強するときにすごく役立ちました。やっている時には「意味がない」と思っていたことでも、後からその意味がはっきりすることもあるのです。だから、今はとにかく、目の前の勉強を一生懸命やって、少しでも「なれる自分」を広げておくことをおすすめします。

こんなことを話した記憶があります。もちろん、今現在もこの考え方自体は変わっていません。でも、本当にごく最近のことですが、もう少し違った思いが僕自身の中に芽生えてきました。勉強って、「将来のため」だけにするのでしょうか。今僕自身が勉強したいと思ってることは特別に将来のためということ意識しているものばかりではありません。

色々考えて、こういう結論にたどりつきました。

勉強とは、それを知る前と比べて目の前の世界が違って見えること

これが、僕自身が、今一番納得できる答えです。

ある時テレビで、綾戸千絵というジャズシンガーが、「歌」を歌うとはどういうことかを芸能人にレクチャーする企画が放送されていました。そのとき、取り上げられていたのが「アメイジング・グレイス」という曲です。ドラマ「白い巨塔」などでも使用されていたので知っていると思います。その歌詞の一部です。

「I was blind, but now I see」（私には見えていなかった、でも今は見える）

綾戸さんは、この歌詞、特に最後の「I see」に感情をこめろと言っていました。ここをどう歌いたいか、どう歌うかでこの曲は決まる、と。宗教の話をしたいわけではありません。でも、僕はこの時に、勉強ってというのはこのことかなと思いました。たった1時間本を読んだだけで、たった1時間人の話を聞いただけで、たった1時間テレビを見ただけで、昨日までとは世界がガラッと変わって見えてしまうことがあると思います。これこそが、勉強そのものではないでしょうか。いわゆる高校でやる教科書を使った勉強だけではないと思います。例えば、テレビドラマで主人公にどっぷり感情移入して号泣した、なんていう経験でも、見る前と見た後で、例えば友達や家族に対しての見方が変わって、すごく優しい気持ちになれた、なんていったら、それは「勉強」ではないでしょうか。「他者へのまなざし」が、そのドラマで変わって、見えなかったものが「見えた」のではないのでしょうか。そう考えると、人間はいつでもどこでも、いかなる場面からでも「学べる」のです。そういう風に高校の授業も受けて欲しいし、受験勉強をはじめとする進路準備もしてほしいと思います。どうせやるなら、少しでも「意味がある」と思えた方がいいですし、実際に自分の受けとめ方しだいですが、すごく意味深いものになるはずですよ。

自分の目で見て、自分の頭で考える

(2010年3月5日 学級通信～卒業式によせて)

高校は、義務教育ではありません。自ら求めて学ぶのが高校という場です。とはいっても、やはり高校までの授業というのは、教員が引っ張って、嫌いな科目も勉強させて、という方法をとっているのが現実だと思います。だから、まだまだ「受け身」の学習でした。でも、これも高校までで終わりです。「学び」は無限に広がっています。与えられた教科書で、与えられた知識を詰め込み、試験で点数をとるような学びは、そのほんの一部を知ったに過ぎません。

パソコンが普及していなかった時代には、知識(情報)をたくさん持っている人が優秀でいられたはずですが、今はインターネット等で多くの情報をいつでも簡単に引き出せる時代になり、物知りの“歩く辞書”のような人材はあまり必要とされなくなりました。

これからの時代は、情報を持つことより、必要な情報を的確に集め、整理できる、情報活用能力が重要です。あらゆる情報の中で、誤った情報や操作された情報に惑わされず、疑問を持ったらあらゆる方法を使って調べ、そうして真実に近い情報を得る(「自分の目で見る」ということ)。それをもとに、自分の考えを整理していく(「自分の頭で考える」ということ)。

「受け身」の学習ではなく、**自分が興味を持ったり、自分が疑問を持ったことを、自分で解決できる力こそが、高校卒業後、人生で最も大切な「本当の学力」**だと思います。皆さんの学びは、明日で一つのステージを終え、新たなステージに入っていきます。

勉強をすると、昨日と同じものを見て、昨日と全く違って見えてきます。世界が変わり、世界が広がります。勉強は本来楽しいものです。いつまでも、学び続けてください。

以上の2つの文章は、過去に大野が書いたものです。

皆さん自身は「勉強は何のためにするのか?」という疑問に、どのような答えをもって自分を納得させていますか?

皆さんの意見を是非、聞かせてください。